

名古屋能楽堂

正月特別公演

能

「翁」^{おきな}（観世流）

翁 山中 雅志
千歳 久田 勘吉郎
三番叟 野村 又三郎

狂言

「三本柱」^{さんぽんのはしら}（和泉流）

シテ 井上 松次郎
「乱」^{みだれ}（観世流）
シテ 久田 三津子



上: 能「翁」 下: 能「猩々」 撮影: 工房円

令和8年

1月3日

(土) 13:00開演 (12:00開場)

指定席 5,200円
自由席(一般) 4,200円
自由席(学生) 2,000円

※能「翁」開演後30分程は入退場できませんのでご注意ください。

10月16日(木)より
前売券発売

生誕百年 三島由紀夫
「能楽」という底流をめぐって

明後日は、「翁」^{おきな}「道成寺」^{だうじやうじ}「猩々」^{しやうしやうしやう}とバレエみたいな
番組のお能を見に行きます

(書簡 キーン、ドナルド宛) ※1

1961年春、三島由紀夫が知人への手紙に書いたこの一文からは、彼が能を、文学性や劇の様式のみならず、それが持つ「身体性」にも関心を寄せていたことがうかがえる。また相手は能楽をよく知る友だからこそその遊び心をこめた表現であろう。この三島の眼差しにならって「正月は「翁」を見なければ、本当に正月の来た気分になれない」※2とも語った《翁》、「猩々」という演目において常とは違う複雑な足遣いと緩急に富む舞事に変えた特殊演出版の《乱》、囃子にのせ朗らかな歓びで舞台を満ちた狂言《三本柱》と、能楽の豊かな身体表現と歌舞の祝祷にあふれる番組をご覧いただきたい。

※1 決装版 三島由紀夫全集38、2004、新潮社、371P。 ※2 芸術断想「同32」2003、新潮社、556P

ドナルド・キーン「鬼怒鳴門」(1922
(2019)は米国出身の日本文学研
究者「近代能楽集」の英訳出版に携わ
り三島文学を世界に紹介した人。日本
文化に広い見識を有し、三十代の頃には
狂言を習い舞台を踏んだ経験も持つ。
2012年日本に帰化。

主催

公財法人

名古屋市文化振興事業団 [名古屋能楽堂]

公益社団法人 能楽協会 名古屋支部



※能「翁」開演後30分程は入退場できませんのでご注意ください。

能
翁（観世流）

翁 山中 雅志
千歳 久田勘吉郎
三番叟 野村又三郎
面箱持 伊藤 泰

笛 竹市 学
脇鼓 福井 聡介
小鼓頭取 後藤嘉津幸
脇鼓 船戸 昭弘
大鼓 河村眞之介

後見 林本 大
山階彌右衛門

狂言後見 松田 高義
藤波 徹

地謡 伊藤 裕貴
松山 幸親
上田 公威
下川 宜長
吉沢 旭

休憩二十分

狂言
三本柱（和泉流）

シテ 果報者 井上松次郎
アド 太郎冠者 野村 信朗
アド 次郎冠者 奥津健一郎
アド 三郎冠者 井上 蒼大

後見 鹿島 俊裕

能
乱（観世流）

笛 山村 友子
小鼓 船戸 昭弘
大鼓 河村裕一郎
太鼓 加藤 洋輝

シテ 久田三津子
ワキ 飯富 雅介

笛 竹市 学
小鼓 後藤嘉津幸
大鼓 河村裕一郎
太鼓 加藤 洋輝

後見 久田勘吉郎
上田 公威

地謡 山脇由美子 林本 大
瀬戸 洋子 山階彌右衛門
吉沢 旭 下川 宜長

（午後三時四十五分頃終了予定）

「イヤホン・ガイド」

◆能「翁」

日本語／大山 範子（神戸女子大学古典芸能研究センター非常勤研究員）

英語／藤江さおり（通訳ガイド）

◆能「乱」
日本語／橋場 夕佳（東邦高等学校教諭）
英語／藤江さおり（通訳ガイド）

●止むを得ず曲目、出演者等が変更となる場合があります。

●上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は事前に許可を受けた方以外のご遠慮ください。

◆能「翁」（おきな）

新春。切火で清められた舞台に、潔斎をすませた演者が、面箱・翁千歳・三番叟と続いて全員が登場する。「切火」とは、この場合、幕際から火打石で火を飛ばすこと。後見の役割。清新の気が漲る。

翁は狩衣・指貫・面箱・千歳・三番叟は侍烏帽子に直垂・囃子・地謡などは侍烏帽子に素襦を着る。

「翁の舞は三部から成り立っていて、最初の千歳は「鳴るは滝の水」と謡い出し、若々しく颯爽とした舞。次に翁の面を舞台上でつけたシテは祈禱的な意味合いを持つ重厚な舞を舞う。その中で、角・脇座前・中央で三回ずつ拍子を踏む。これを「天・地・人の拍子」と称する。翁と千歳の退場後、三番叟の賑やかな舞となる。はじめの部分を「揉之段」、黒式尉の面をつけ、鈴を持った後半部の舞を「鈴之段」と称する。天下泰平、国土安穩を祈る儀式能。

新年の翁。それはさわやかな日本の新春。

◆狂言「三本柱」（さんぼんのはしら）

裕福な主人（果報者）は三人の家来を呼出し、普請（ふしん）新築・増改築のためにあらかじめ用意しておいた木材を、山から下ろして運んで来るように命じます。ただしそれは条件があつて、「三本の柱を、三人で一本ずつ持つて戻す」との事。指令を受け山へ出向いた家来達は、この難問の意を試行錯誤しながら解きはしめします。

狂言に於いて家来（太郎冠者など）が登場する演目の多くは《任務失敗》に終わる事で笑いを誘発するのですが、本曲では家来たちの数学的知識への挑戦、或いは任務遂行に向けての実直さなど、抱える主の期待に応えるべき知的レベルと忠誠心が伺えます。

また新築をテーマに扱った目出度い演目でもあるゆえ、柿落し（舞台披露）などで披露される事も多く、名古屋能楽堂の開館記念公演や名古屋城本丸御殿の起工・完成の各式典などでも上演されてきました。（井上松次郎）

◆能「乱」（みだれ）

中国・金山の麓、揚子の里に、親孝行な高鳳という男がいました。ある夜「揚子の市で酒を売れば富み栄える」という夢を見て商売を始めるも、たちまち繁盛します。市には毎日酒を買いに来る客があり、いくら飲んで顔色も悪くなりません。不思議に思つて名を尋ねると、海に棲む狸と名乗りました。

ある日、高鳳は湯陽の江辺に酒を持ち出し、狸たの来訪を待ちます。やがて現れた赤い顔の狸々は、友との再会を喜び、酒を飲み、舞を舞います。そして高鳳の素直な心を称え、尽きることのない酒の通く壺を贈ります。

（久田三津子）

正月特別公演事前学習講座

12月13日（土） 14:00～16:00

受講チケット 500円

◆能「翁」・「乱」のあらすじ、見どころを解説します。詳細は事前学習講座チラシをご覧ください。

※事前学習講座のチケットは、名古屋市文化振興事業団の管理する文化施設窓口にて取り扱いをしております。

チケット料金（税込） *前売券発売日 令和7年10月16日（木）

	指 定 Reserved	自 由 Non reserved	
		一 般 Adult	学生(25歳)以下 Student 25 and under
前 売 Advance sale	5,200円	4,200円	2,000円

*学生券は25歳以下を対象とします。*未就学児のご入場はお断りいたします。
*チケットは1回につき4枚までの販売とさせていただきます。

*事業団友の会会員・障がい者手帳等をお持ちの方（付添者1名含む）は400円引きです。（学生券の割引はありません。）
（名古屋能楽堂・事業団チケットガイド・事業団施設窓口のみ。各割引の併用はできません。）

前売券取扱所 Ticket Office

名古屋能楽堂／TEL.052-231-0088

*前売券発売日当日は、お電話がつながりにくいことがあります。

名古屋市文化振興事業団チケットガイド／TEL.052-249-9387
（平日9:00～17:00／チケット郵送可）

名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口＜土日祝日も営業＞でもお求めいただけます。

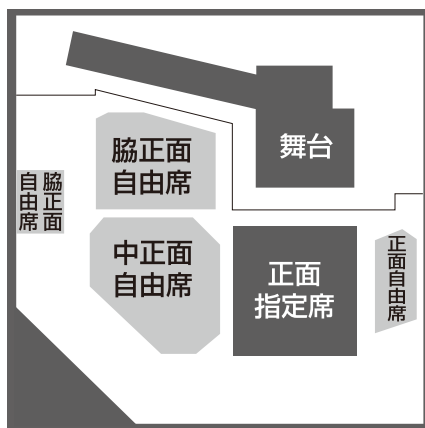
（工事休館などがありますので、ホームページでご確認ください。）

チケットぴあ／Pコード536-865

*外国籍が証明できるパスポート等を持参された方には前売・当日とも割引きます。（名古屋能楽堂取扱いのみ）

Discount is available by showing passport or other proof of foreign nationality. (at Nagoya Noh Theater only)

お問い合わせ／名古屋能楽堂 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756



〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目1番1号

公演についての最新の情報は
名古屋能楽堂ホームページを
ご覧ください。

https://www.bunka758.or.jp/facility/nougakudo/